

刑 法

注 意 事 項

- I 試験開始の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- II 解答用紙は 1 枚配付します。
- III 解答にあたっては、黒インクのボールペンまたは万年筆のいずれかを使用してください（ただし、インクがプラスチック製消しゴムで消せないものに限りです）。それ以外で解答用紙に記入した場合は、無効とします。
- IV 解答を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1 行の場合には横線で消して、その次に書き直してください。修正液・修正テープを使用してはいけません。
- V 設問が複数の場合は、解答用紙に設問番号を明記したうえで、解答してください。設問番号の記入がない場合は、無効とします。
- VI 試験時間は 60 分です。
- VII 問題は 1 ページにあります。

刑 法

下記の文章を読んで、甲の罪責について論じなさい（「自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律」以外の特別法違反の点は除く）。

金融機関からの借金返済に窮していた甲は、知人の A に金策を相談したところ、A は、「甲が運転する自動車を、A が運転する自動車（以下「A 車」という。）にわざと衝突させ、A 車に損害を与えると共に A に軽傷を負わせ、これを甲の過失により生じた交通事故であるかのように装って、保険会社から事故の保険金を騙し取るのはどうか」と提案した。甲はまとまった金を手に入れるにはこの方法しかないと考え、A と得た保険金を山分けすることにして、この計画を実行することにした。

翌日昼過ぎ、甲と A はそれぞれ自家用車で、A の自宅から幹線道路に向かって運転を開始し、甲は A 車を追尾する形で、市内の道路を走行していた。交差点で赤信号になり、A 車が停止したため、甲はここで自動車を衝突させようと考え、時速約 20km の速度で自車を A 車の後部に追突させた。その衝撃で A 車の後部が損傷し、A も加療約 2 週間の頸部捻挫の傷害を負った。

そして、A 車は前に押し出されたことで、その左前方に停車していた B のバイクに接触し、B はバイクごと転倒したことによって加療約 2 週間の左手首骨折の傷害を負った。甲も A も、この事故で第三者を巻き込むことを想定しておらず、衝突時、甲に B の存在は認識されていなかった。

以 上